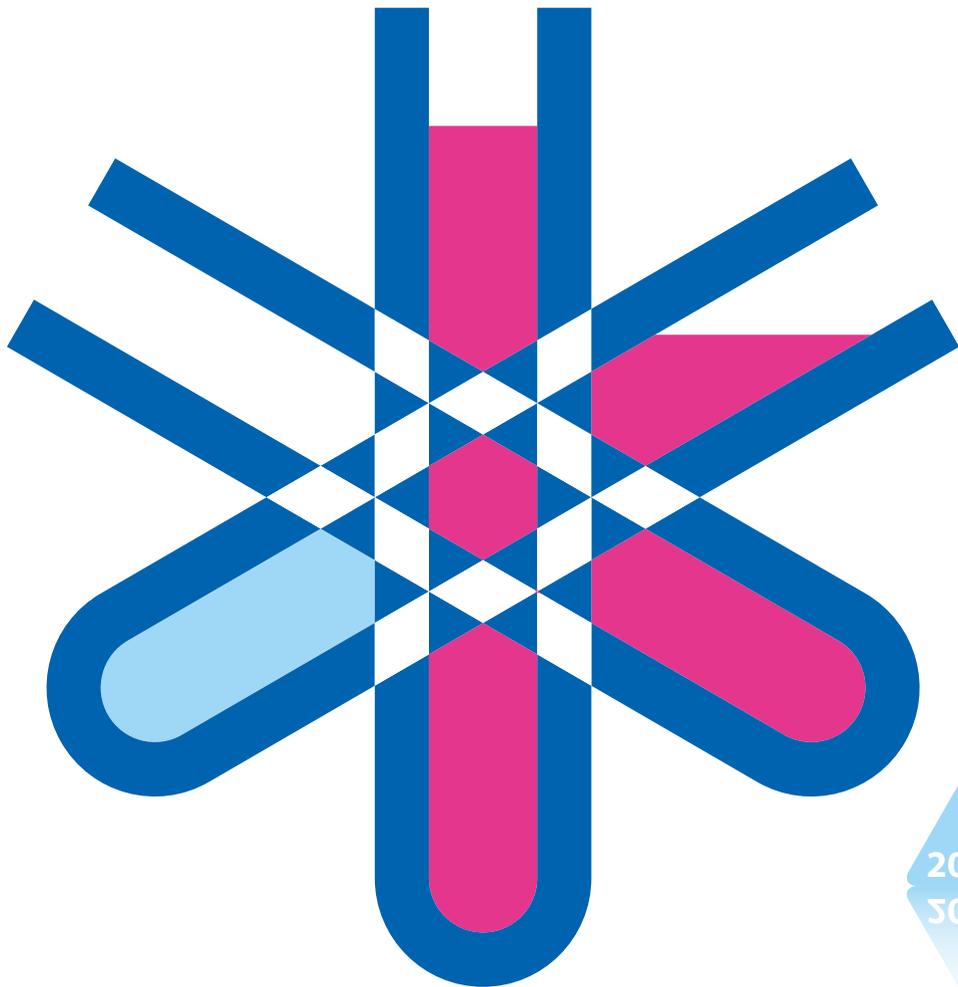


# 横查情報月報



2024  
5054  
9  
6

横浜市衛生研究所

# 令和6年9月号 目次

## 【検査結果】

劇症型溶血性レンサ球菌感染症検査結果(2023年) .....	1
新型コロナウイルスの全ゲノム解析(2023年1月～2024年6月) .....	4
海水浴場水質調査結果(令和6年度) .....	7

## 【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報(令和6年8月) .....	9
-----------------------------	---

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告* (令和6年8月) .....	10
-----------------------------	----

\* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」(下記URL)をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo-fukushi/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

# 劇症型溶血性レンサ球菌感染症検査結果(2023年)

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、溶血性を示すA群等のレンサ球菌によって引き起こされる感染症です。基礎疾患の有無に関わらず、突然の四肢の疼痛、腫脹、発熱などで発症し、その後急激に軟部組織壊死、急性腎不全、播種性血管内凝固症候群(DIC)、多臓器不全(MOF)を引き起こしショック状態から死亡することも多い感染症です。診断されると発生届が提出される感染症(五類全数届出疾病)で、全国的に増加しつつあります(次ページ図参照)。なかでも2023年夏以降、日本国内で初めて、2010年代に英国で流行した病原性及び伝播性が高いとされる *Streptococcus pyogenes* T1型のM1<sub>UK</sub> lineage(M1<sub>UK</sub>系統株<sup>※1</sup>)の集積が確認されています。

当所では、感染症法に基づく感染症発生動向調査事業の一環として市内の医療機関から送付された劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者から分離された菌株についてT型別<sup>※2</sup>、*emm* 遺伝子型別<sup>※2</sup>、発赤毒素遺伝子(*spe*)の検査をおこなっています。さらに菌株を国立感染症研究所に送付し、そこでM型別<sup>※2</sup>、薬剤感受性試験、M1<sub>UK</sub>系統株の確認などをおこなっています。

今回は2023年1月から12月までの1年間に、市内医療機関から保健所への届出があり、これに伴って搬入された菌株についての検査結果を報告します。

2023年は、発生届が出された26事例から分離された菌株26株が搬入されました。その起因菌はLancefield群別のA群、B群、C群およびG群溶血性レンサ球菌であり、詳細は当所で受付された順に表に示しました。A群は11事例、B群は3事例、C群は1事例、G群は11事例でした。このうちA群はTUT、MUT(UT:型別不能)が9事例、T1、M1が2事例でこの2事例はいずれもM1<sub>UK</sub>系統株でした。年齢別に分類すると26事例のうち、30代が2事例、40代が1事例、60代が6事例、70代が7事例、80代が7事例、90代が3事例でした。30代、40代の3事例はA群であり、A群の平均年齢は64歳だったのに対してG群の平均年齢は79歳で、A群はG群より若い傾向にありました。

※1 M1<sub>UK</sub>系統株は、M1型株において欧米で主要な分離系統となっており、発赤毒素産生量が多く伝播性も高いとされている系統の株で、近年関東地方周辺で検出数と割合が増加しています。(「[国内における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の増加について\(2024年6月時点\)](#)」国立感染症研究所細菌第一部2024年7月1日一部改訂)

※2 T型別、M型別とは、A群溶血性レンサ球菌の菌体表層に存在する蛋白の血清型別のことで、疫学調査の手段として広く用いられています。また、M蛋白は抗オプソニン作用を示し、病原因子として知られています。*emm* 遺伝子による型別はそのM蛋白遺伝子で型別する方法です。

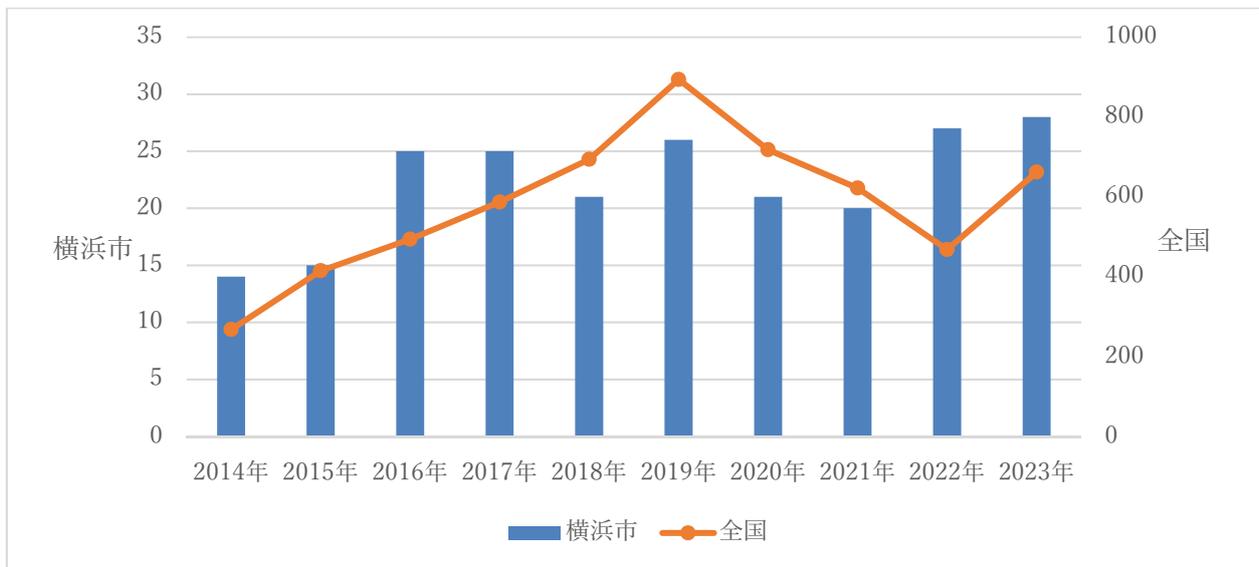


図 劇症型溶血性レンサ球菌感染症発生届出数(全国および横浜市)

国立感染症研究所感染症発生動向調査週報(IDWR)および横浜市感染症発生動向調査 全数情報から

表 2023年に発生した劇症型溶血性レンサ球菌感染症由来菌株の検査結果

受付月	年齢	性別	材料	Lancefield群別等	T型	M型	emm	発赤毒素 遺伝子 (spe)
1月	60代	男	血液	B群Ⅷ型				
1月	60代	男	血液	A群	UT	UT	49.0	B、F
1月	80代	男	血液	A群	UT	UT	49.0	B、F
				G群				
2月	80代	女	血液	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG10.0	
2月	80代	男	血液	A群	UT	UT	81.0	B、F
2月	70代	男	血液	A群	UT	UT	49.0	B、F
				G群				
4月	80代	女	血液	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG245.0	
4月	70代	女	血液	B群 I b型				
5月	90代	女	血液	A群	UT	UT	89.0	B、C、F
				G群				
5月	60代	男	血液	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG652.0	
				G群				
6月	90代	男	血液	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG4974.3	
				G群				
6月	80代	男	血液	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG653.0	

表(続き) 2023年に発生した劇症型溶血性レンサ球菌感染症由来菌株の検査結果

受付月	年齢	性別	材料	Lancefield群別等	T型	M型	emm	発赤毒素 遺伝子 (spe)
7月	80代	女	血液	G群 <i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG485.0	
7月	30代	男	血液	A群	T1 (M1 <sub>UK</sub> 系統株)	M1	1.0	A、B、F
7月	70代	女	血液	G群 <i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG10.0	
8月	30代	女	血液	A群	T1 (M1 <sub>UK</sub> 系統株)	M1	1.0	A、B、C、F
8月	70代	女	血液	G群 <i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG2078.0	
8月	60代	男	血液	G群 <i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG840.0	
8月	70代	女	血液	G群 <i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG485.0	
8月	60代	男	血液	A群	UT	UT	49.0	B、F
9月	80代	男	血液	G群 <i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG653.0	
9月	40代	女	血液	A群	UT	UT	87.0	B、F
10月	60代	男	血液	A群	UT	UT	49.0	B、F
10月	70代	女	血液	A群	UT	UT	22.0	A、B、F
11月	90代	男	血液	C群 <i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stC6979.0	
11月	70代	女	血液	B群V型				

UT:型別不能

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

# 新型コロナウイルスの全ゲノム解析（2023年1月～2024年6月）

## 1 横浜市衛生研究所での新型コロナウイルス全ゲノム解析

ウイルス担当では、食中毒・感染症等でのウイルス検査・研究を行っています。

新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）の国内での検査開始においては、その新たな検査の早期立ち上げ、実施を担ってきました。その後、民間検査機関で行う検査数が充実した後に、地域内で実際に流行するウイルスの確保・把握や変異解析等を重点としながら、必要な検査を続けてきました。

2020年1月～2021年6月の新型コロナウイルスのPCR検査体制については2021年9月号に掲載しております。全ゲノム解析について当初は国立感染症研究所に依頼しておりましたが、2022年3月から当所で次世代シーケンサーを用いた全ゲノム解析を開始し、2022年7月までのまとめを2022年8月号に、2023年8月までのまとめを2023年9月号に掲載しております。今回は2023年1月から2024年6月までの結果について報告します。

COVID-19は2019年12月の中華人民共和国湖北省武漢市での流行が確認された後、国内においては2020年1月28日に指定感染症に指定され、1月30日には、世界保健機関（WHO）がCOVID-19について、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言しました。その後4月上旬に第1波、8月上旬に第2波、2021年1月上旬に第3波、5月上旬（アルファ株）に第4波、8月中旬（デルタ株）に第5波、2022年2月上旬（オミクロン株BA.1/BA.2）に第6波、8月上旬（オミクロン株BA.5）に第7波、2023年1月上旬（オミクロン株BA.5）に第8波をピークとする流行が発生しました。国内においては5月8日に感染症法上の5類に分類されました。今回は第8波から第10波及びその後の流行を含んだ期間の結果報告です。

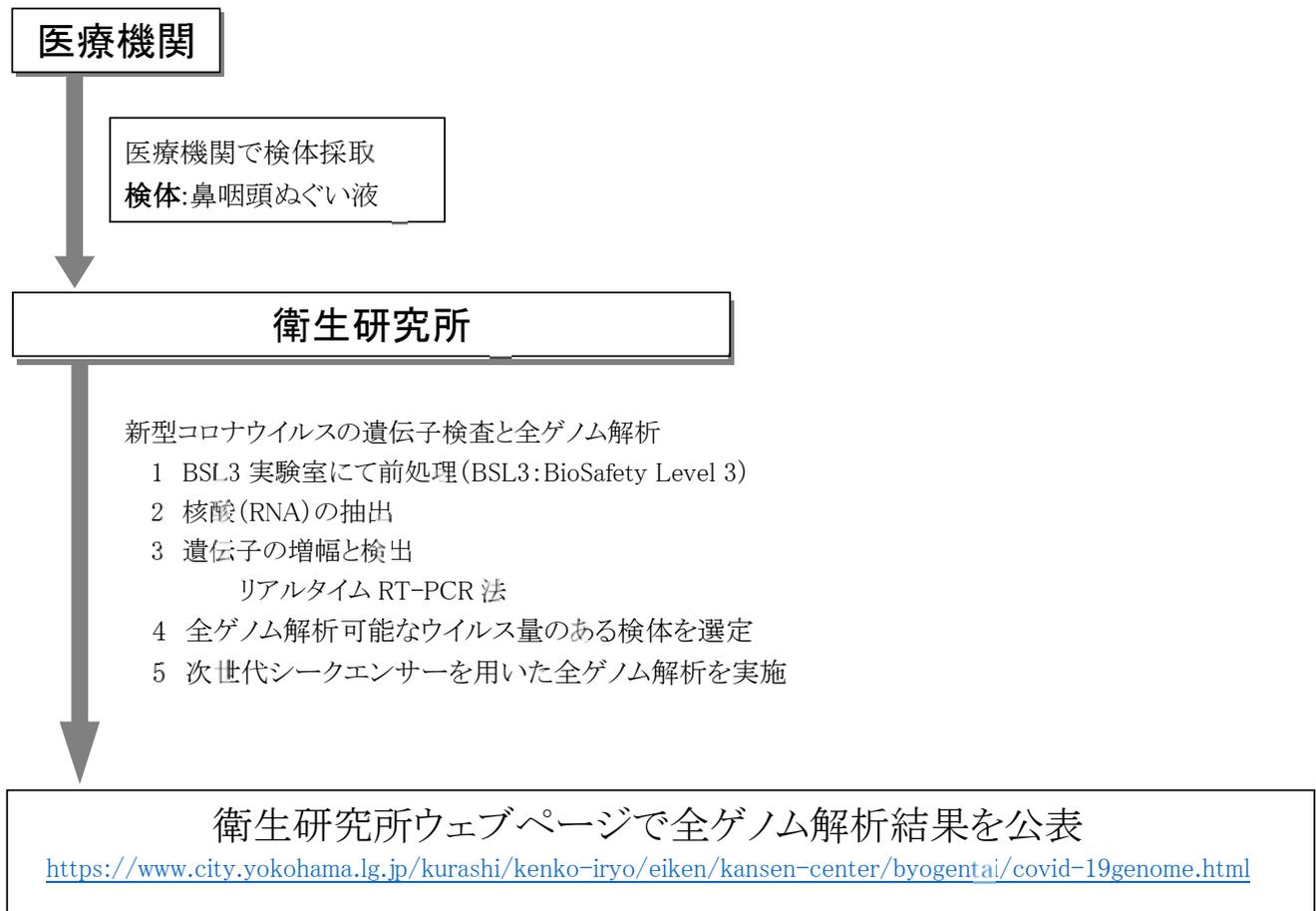


図1 新型コロナウイルスの全ゲノム解析の流れ

## 2 新型コロナウイルス全ゲノム解析の流れ

図1に当所での全ゲノム解析の流れを示します。

横浜市内の医療機関等で採取された検体が当所に搬入され検査を実施しています。検体は「鼻咽頭ぬぐい液」が採取されます。その検体からRNAを抽出し、リアルタイムRT-PCRで新型コロナウイルス陽性を確認し、十分なウイルス量のある検体について全ゲノム解析を実施しています。

## 3 全ゲノム解析の結果

2023年1月から2024年6月までに新型コロナウイルスが検出された検体のうち、次世代シーケンサーで解析可能であった504検体について解析した結果、504検体全てオミクロン株であり、BA.2、BA.5、XBB、XDA、XDQの5系統とその子孫系統に分類されました。国立感染症研究所によるLineageの解析結果(2024年8月時点)を図2に示します。図2上下両図ともに横軸は時系列で月ごとに、上図縦軸は検体数、下図縦軸は検出割合を表しています。2023年1月の第8波はBA.5系統とその子孫系統が主に検出されていましたが、8月の第9波はXBB系統の子孫系統であるEG.5系統が増加しました。その後、2024年1月の第10波にはJN.1系統の検出割合が高くなりました。さらに2024年5月からはKP.3系統の検出割合が高い傾向にあります。

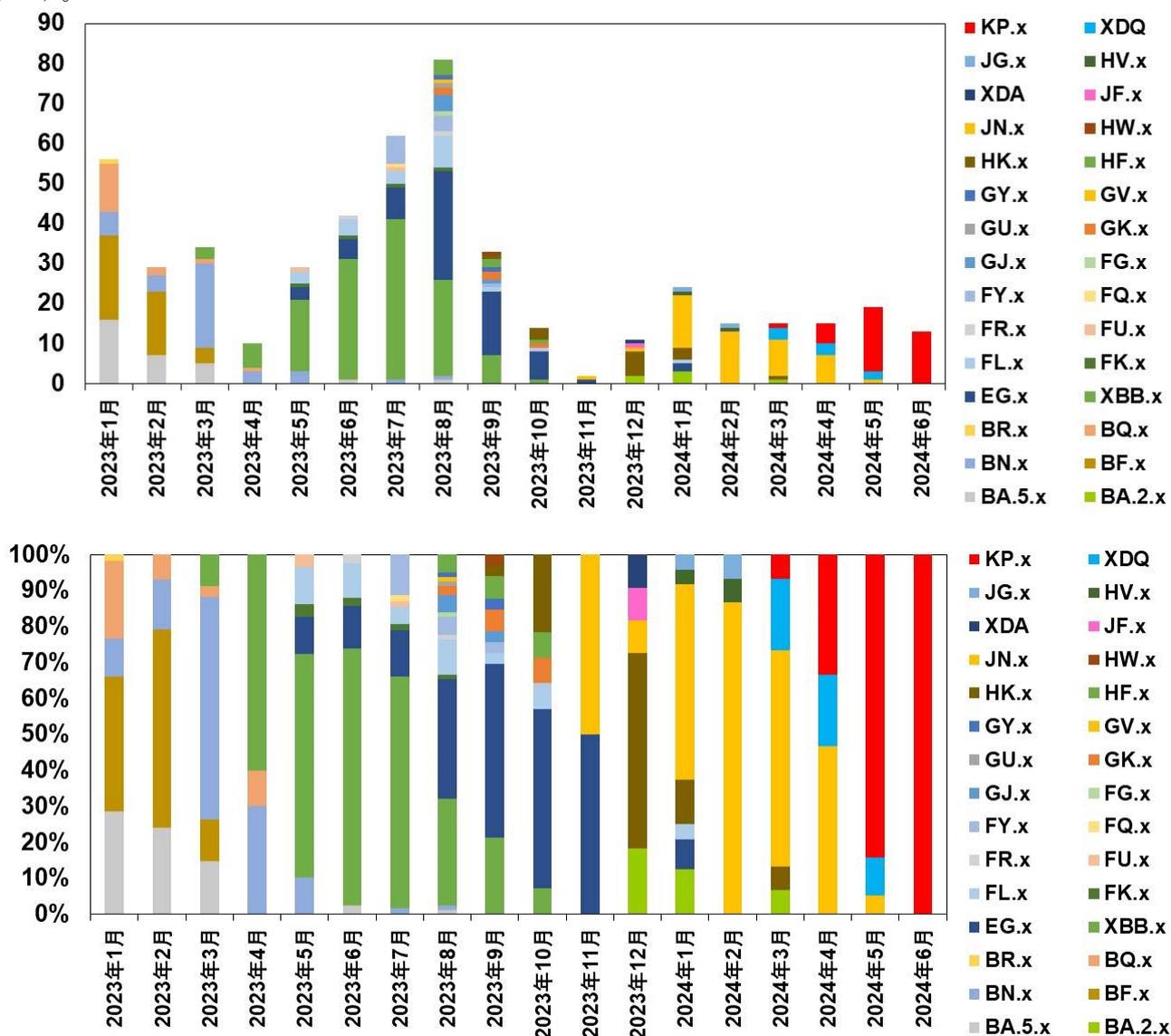


図2 2023年1月～2024年6月における新型コロナウイルスの系統別検出数及び割合の推移

#### 4 結語

COVID-19は、治療薬、ワクチン接種が普及した現在も流行が発生しており、未だ終息を見ません。今後も地域内の流行を適切に捉え、この感染症対策に資するための解析を引き続き実施していきます。

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

# 海水浴場水質調査結果(令和6年度)

横浜市金沢区の「海の公園」海水浴場において、5月及び7月に環境省からの通知に基づく水質調査を行った結果を紹介します。

## 1 対象施設及び試料

- (1) 対象施設：「海の公園」海水浴場
- (2) 採水日：令和6年5月8日・9日及び7月2日・3日
- (3) 試料：「海の公園」沖3地点(沖左側・沖中央・沖右側)で、1日に2回(午前・午後)採水した海水。4日間で計24試料。

なお、採水は金沢福祉保健センターがみどり環境局及び公益財団法人横浜市緑の協会の協力を得て行いました。



## 2 検査項目

水質評価項目及び参考検査項目を表1に示しました。

表1 検査項目

検査担当	水質評価項目	参考検査項目
福祉保健センター	油膜の有無、透明度	水温、気温、透視度、臭気等
衛生研究所	ふん便性大腸菌群数	腸管出血性大腸菌O157
	化学的酸素要求量(COD)	一般細菌数、pH

## 3 検査方法

「令和6年度水浴に供される公共用水域の水質調査結果の報告について」(環境省水・大気環境局水環境課長通知 令和6年4月4日付け環水大管発第2404041号)に基づいて行いました。

## 4 検査結果と判定区分

水質評価項目と参考検査項目の水質検査結果は表2のとおりでした。5月8日・9日の12試料の検査結果及び7月2日・3日の12試料の検査結果を用い、環境省通知で定められた方法で報告値を算出しました。その報告値を水浴場水質判定基準(表3)によって「適(水質AA、水質A)」、「可(水質B、水質C)」、「不適」の5段階に区分しました。

令和6年度は、油膜の有無及びふん便性大腸菌群数の2項目については5月及び7月ともに「適(水質A)」の基準を満たしていました。透明度は、5月は1.0m以上でしたが、7月3日午後に0.5m以上1.0m未満に悪くなりました。化学的酸素要求量(COD)については、5月8日に最低値1.2mg/Lを示し5月の平均値は1.9mg/Lでした。7月3日午後に11~17mg/Lに高くなり、7月の平均値は6.9mg/Lでした。CODは5月と比べて7月が高い結果でした。

令和6年度の判定区分は、5月は「適(水質A)」、7月は「可(水質C)」でした。なお、昨年(令和5年度)は5月「可(水質B)」、7月は「可(水質C)」でした。

表2 令和6年度「海の公園」海水浴場の水質検査結果

検査項目	5月		7月	
	8日	9日	2日	3日
油膜の有無	無 <sup>*1</sup>	無 <sup>*1</sup>	無 <sup>*1</sup>	無 <sup>*1</sup>
透明度(m)	午前	1.0以上	1.0以上	1.0以上
	午後			1.0以上 0.5以上1.0未満
ふん便性大腸菌群数(個/100mL)	2未満～14	2未満～2	2～12	2未満～6
COD(mg/L)	午前	1.2～1.4	1.9～2.2	2.5～2.6
	午後	1.8～2.1	2.2～2.5	4.7～4.9
腸管出血性大腸菌O157(/3,000mL)	不検出	—	不検出	—
一般細菌数(cfu/mL) <sup>*2</sup>	1～9	5～12	6～31	27～51
pH	午前	8.0	8.1～8.2	8.1
	午後	8.1	8.1	8.2～8.3

\*1:「認められない」、\*2:参考のため検査しており水質基準はありません

表3 令和6年度「海の公園」海水浴場の環境省への報告値及び水浴場水質判定基準

検査項目	環境省への報告値		水浴場水質判定基準				
	5月 (海水浴場開設前)	7月 (開設中)	適 水質AA	適 水質A	可 水質B	可 水質C	不適
油膜の有無	無 <sup>*1</sup>	無 <sup>*1</sup>	無 <sup>*1</sup>	無 <sup>*1</sup>	無 <sup>*2</sup>	無 <sup>*2</sup>	有 <sup>*3</sup>
最小～最大(平均)	(無 <sup>*1</sup> )	(無 <sup>*1</sup> )					
透明度(m)	1.0以上～1.0以上	0.5～1.0以上	1.0以上	1.0以上	0.5以上	0.5以上	0.5未満
最小～最大(平均)	(1.0以上)	(0.88)			1.0未満	1.0未満	
ふん便性大腸菌群数 (個/100mL)	2未満～14	2未満～12	2未満	100以下	400以下	1,000 以下	1,000超
最小～最大(平均)	(3)	(4)					
化学的酸素要求量 COD (mg/L)	1.2～2.5	2.5～17	2以下	2以下	5以下	8以下	8超
最小～最大(平均)	(1.9)	(6.9)					
腸管出血性大腸菌 O157 (/3,000mL)	不検出	不検出	—	—	—	—	—
pH 最小～最大	8.0～8.2	8.1～9.0	—	—	—	—	—

\*1:「認められない」、\*2:「常時は認められない」、\*3:「常時認められる」

(注) 判定については、水質評価する4項目(油膜の有無、透明度、ふん便性大腸菌群数、化学的酸素要求量)を用います。全ての項目が「適(水質AA)」の基準を満たす水浴場の判定は「適(水質AA)」となります。ただし、一つでも満たさない項目があると、その項目の基準を満たす区分が水浴場の判定となります。いずれかの項目が「不適」である水浴場を「不適」とします。

【 理化学検査研究課 環境化学担当、微生物検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所ウェブページ情報（令和6年8月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和6年8月の追加・更新記事について報告します。

## 1 追加・更新記事

令和6年8月に追加・更新した主な記事は、10件でした。

掲載月日	内容
8月1日	手足口病流行情報(2024年8月1日) 横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果（速報版第6回）
8月6日	熱中症情報(2024年8月5日)
8月8日	手足口病流行情報(2024年8月8日)
8月13日	熱中症情報(2024年8月13日)
8月14日	感染症に気をつけよう(8月号)
8月19日	熱中症情報(2024年8月19日)
8月20日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果（速報版第7回）
8月27日	熱中症情報(2024年8月27日)
8月30日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果（速報版第8回）

## 2 記事紹介

手足口病流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/rinji/hfnd.html>

横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/inf-c-kabaikai.html>

熱中症情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/necchusho/index.html>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

【 感染症・疫学情報課 】

# 横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年8月）

## 《今月のトピックス》

- 百日咳、マイコプラズマ肺炎の報告が増加しています。
- 手足口病の報告が続いています。流水と石けんでのこまめな手洗いを心がけましょう。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に、幅広い年齢層で患者が多く発生し、妊婦の報告もみられます。より一層の注意が必要です。

### ◇ 全数把握の対象 <2024年7月22日～8月18日に報告された全数把握疾患>

細菌性赤痢	2件	急性脳炎	2件
腸管出血性大腸菌感染症	10件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5件
腸チフス	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	2件	水痘(入院例に限る)	3件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	38件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6件	百日咳	8件

1. **細菌性赤痢**:40歳代及び50歳代で、いずれも Sonnei(D群)、国外での経口感染と推定されています。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～70歳代で、O血清群はO157が7件、O103が1件、O血清不明が2件です。経口感染と推測される報告が3件、感染経路等不明の報告が7件です。
3. **腸チフス**:30歳代で、国外での感染と推定されています。
4. **A型肝炎**:60歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
5. **レジオネラ症**:70歳代及び90歳代で、いずれも肺炎型です。感染経路等不明です。
6. **アメーバ赤痢**:60歳代で、経口感染と推定されています。
7. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:50歳代～80歳代で、以前からの保菌と推定される報告が3件、医療器具関連感染と推定される報告が2件、手術部位感染と推定される報告が1件です。
8. **急性脳炎**:10歳未満及び10歳代で、いずれも病原体不明、感染経路等不明です。
9. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:40歳～70歳代で、血清型A群が3件、G群が1件、血清群不明が1件です。創傷感染と推定される報告が2件、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が2件です。
10. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～50歳代で、性的接触3件(異性間・同性間2件、同性間1件)、感染経路等不明が1件です。
11. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回1件、無1件、不明2件)で、保菌と推定される報告が1件、感染経路等不明が3件です。
12. **水痘(入院例に限る)**:10歳代～50歳代(ワクチン接種歴1回2件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が2件です。
13. **梅毒**:20歳代～80歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期15件、早期顕症梅毒Ⅱ期14件、無症状病原体保有者9件です。性的接触による感染と推定される報告が34件(異性間30件、同性間2件、性別不詳2件)、感染経路等不明が4件です。
14. **百日咳**:10歳未満～60歳代(ワクチン接種歴5回1件、4回5件、不明2件)で、家族内感染または周囲の流行による感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が7件です。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

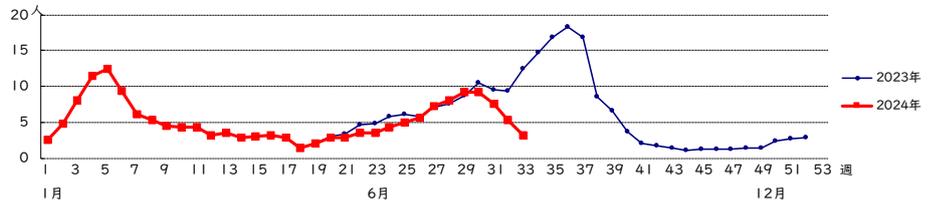
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/>

報告週対応表	
2024年第30週	7月22日～7月29日
第31週	7月30日～8月4日
第32週	8月5日～8月11日
第33週	8月12日～8月18日

◇ 定点把握の対象

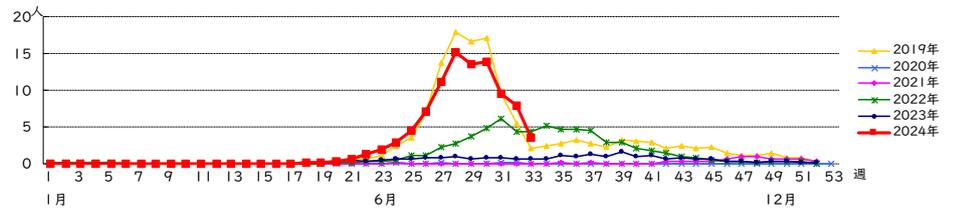
1 新型コロナウイルス感染症

2024年5月以降増加傾向が続いていましたが、第29週の9.15をピークに減少しています。第33週は3.13です。



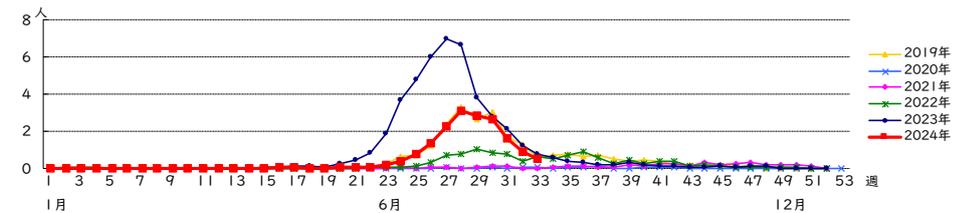
2 手足口病

2024年第26週に7.22となり、警報発令基準値(5.00)を上回りました。第29週の15.27をピークに減少していますが、警報レベルは続いています。第33週は3.53です。



3 ヘルパンギーナ

2024年第22週以降増加しはじめました。第28週の3.14をピークに減少しており、第33週は0.56です。



4 性感染症(2024年7月)

性器クラミジア感染症	男性:51件	女性:20件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:10件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:18件	女性:0件	淋菌感染症	男性:14件	女性:2件

5 基幹定点週報

	第30週	第31週	第32週	第33週
細菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.25
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	1.50	1.25	1.50	2.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年7月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2024年第30週～第33週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点23件、内科定点6件、定点医療機関外2件でした。

8月23日現在、表に示した各種ウイルスの分離3株と遺伝子15件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2024年第30週～第33週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	ヘルパンギーナ	手足口病
インフルエンザウイルス AH1型pdm09		2		
RS ウイルス	- 1	- 1		
パラインフルエンザウイルス 3型		- 2		
コクサッキーウイルスA5型	- 1	- 1		
コクサッキーウイルスA6型			- 1	- 1
コクサッキーウイルスA10型	- 1		- 1	
新型コロナウイルス	- 1			
アデノウイルス	- 1	- 1		
アデノウイルス2型		1 -		
ヒトボカウイルス	- 1	- 1		
合計	- 6	3 6	- 2	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2024 年第 30 週～第 33 週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症 12 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 7 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 4 件、侵襲性肺炎球菌感染症 2 件、細菌性赤痢、腸チフス、トキシックショック症候群 1 件、細菌性髄膜炎各 1 件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からボレリア感染症疑い 2 件、レジオネラ症 1 件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼はありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2024 年第 30 週～第 33 週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	12	O157 : H7 VT2 (6) O157 : H7 VT1 VT (3) O157 : H- VT1 VT2 (1) O26 : H11 VT1 (1) Og49 : Hg10 VT2 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	7	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1) <i>Klebsiella aerogenes</i> (5) <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4	A群溶血性レンサ球菌 T1型 (3) C群溶血性レンサ球菌 (1)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 10A (1) <i>Streptococcus pneumoniae</i> 24F (1)	
	細菌性赤痢	1	<i>Shigella sonnei</i> (1)	
	腸チフス	1	<i>Salmonella</i> Typhi (1)	
	トキシックショック症候群	1	メチシリン黄色ブドウ球菌 TSST+, PVL+ (1)	
	細菌性髄膜炎	1	<i>Lysinibacillus sphaericus</i> (1)	
分離同定	項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所	ボレリア感染症疑い	1	痂皮	ライム病、回帰熱ボレリア遺伝子 陰性 (2)
		1	全血	
	レジオネラ症	1	喀痰	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】